



青森県感染症発生情報
(2026年第14週)

I 第14週の発生動向 (2026/3/30~2026/4/5)

1. インフルエンザについては、**西北保健所管内で注意報**が継続しています。一方、東津軽+青森市保健所管内の警報は**解除**となりました。県全体の定点当たり報告数は減少していますが、引き続き新型コロナウイルス感染症の予防も兼ねて、基本的な感染対策の徹底をお願いします。季節性インフルエンザの発生状況・型別等の情報については、県庁HP「インフルエンザに注意しましょう！」をご覧ください。☞ [インフルエンザに注意しましょう！\(県保健衛生課\)](#)

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「つつが虫病」です。
最終ページに掲載しています。

II 第14週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

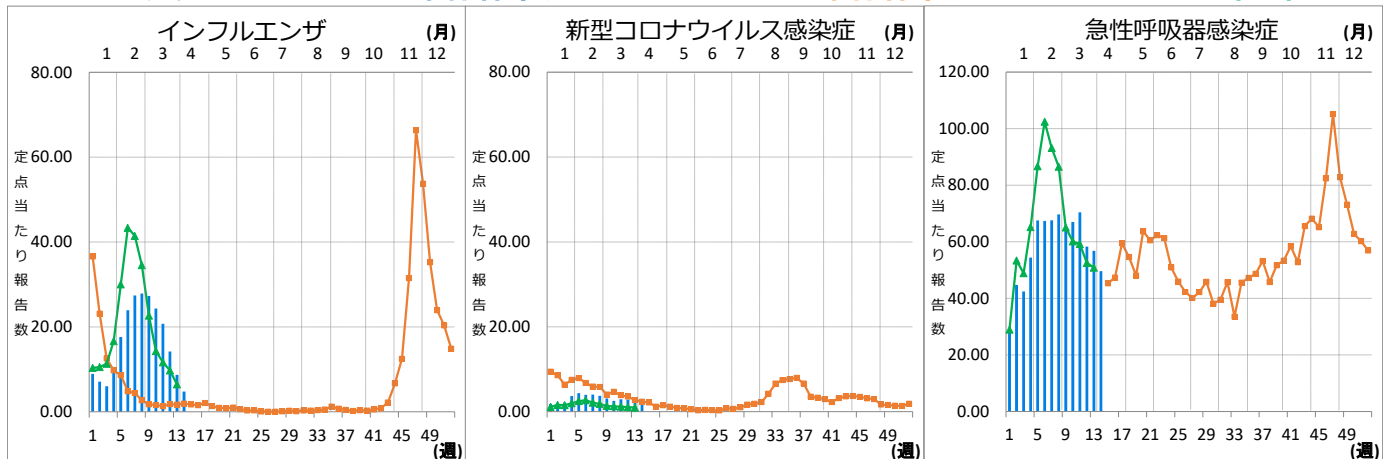
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

■ は警報、■ は注意報。「空欄」: 患者報告無し。

		東青 (東津軽+ 青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+ 八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週 からの 増減
		数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
急性 呼吸器 感染症	インフルエンザ	51	4.64	36	3.60	23	2.30	60	10.00	42	4.67	36	6.00	248	4.77	-204
	新型コロナウイルス感染症	17	1.55	12	1.20	44	4.40	20	3.33	30	3.33	7	1.17	130	2.50	-3
	急性呼吸器感染症	787	71.55	332	33.20	455	45.50	239	39.83	384	42.67	383	63.83	2580	49.62	-373
小児科	RSウイルス感染症	5	0.83	3	0.50	6	0.86	1	0.20	1	0.17			16	0.47	6
	咽頭結膜熱					5	0.71	1	0.20	1	0.17			7	0.21	0
	A群溶血性レンカ球菌咽頭炎	17	2.83	7	1.17	18	2.57	12	2.40	6	1.00	2	0.50	62	1.82	1
	感染性胃腸炎	33	5.50	13	2.17	30	4.29	20	4.00	12	2.00	9	2.25	117	3.44	35
	水痘					2	0.29							2	0.06	-3
	手足口病	1	0.17											1	0.03	1
	伝染性紅斑					1	0.14			1	0.17			2	0.06	1
	突発性発しん	3	0.50											3	0.09	-2
	ヘルパンギーナ															0
	流行性耳下腺炎															-2
眼科	急性出血性結膜炎			1	0.33									1	0.10	1
	流行性角結膜炎							1	1.00					1	0.10	1
基幹	感染性胃腸炎(ロウウイルス)															0
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															0
	マイコプラズマ肺炎											2	2.00	2	0.33	-3
	無菌性髄膜炎															0

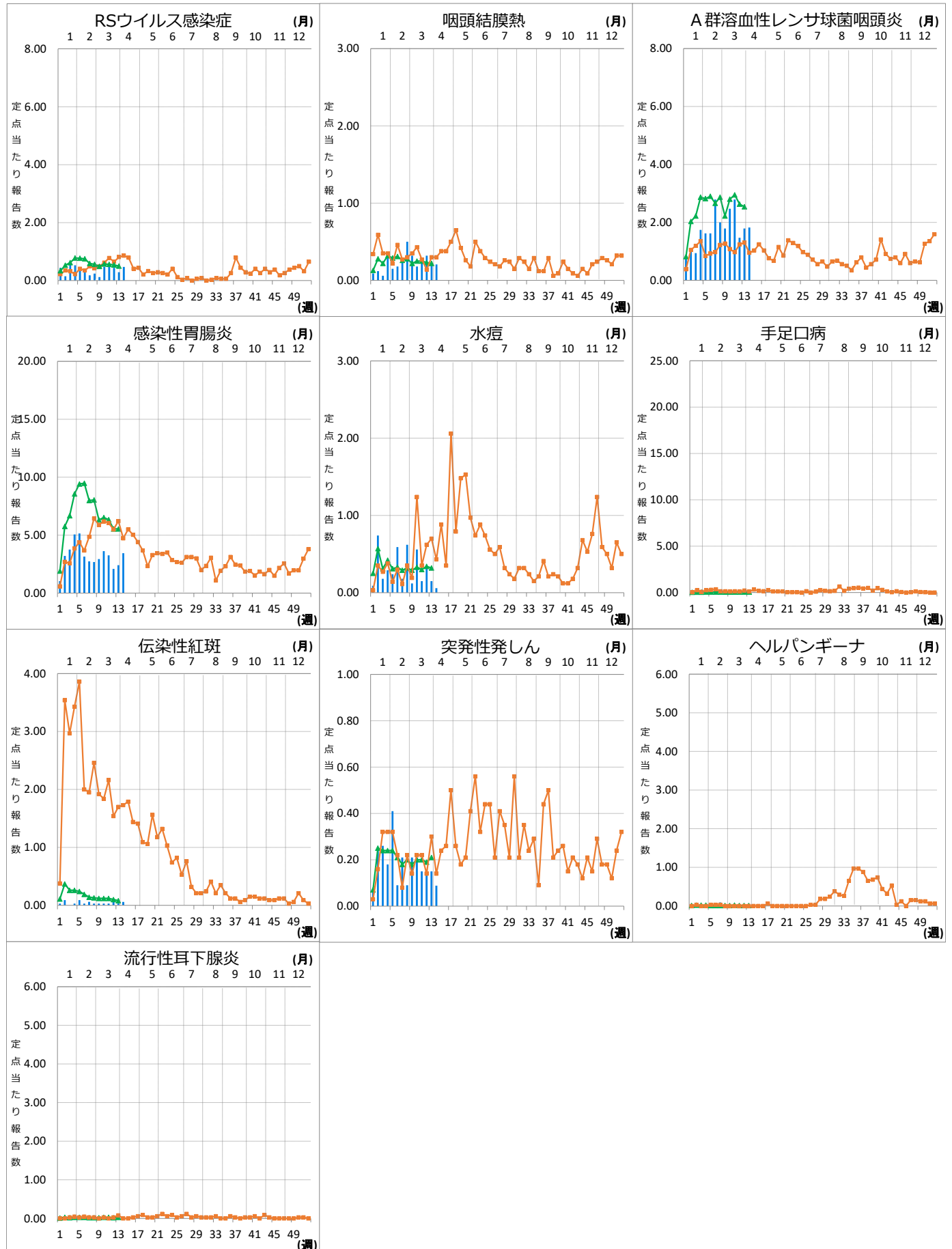
III 定点把握対象疾患週別推移(急性呼吸器感染症定点) (2026年第14週、ただし全国は前週)

グラフの説明: ■は2026年青森県、■は2025年青森県、▲は2026年全国



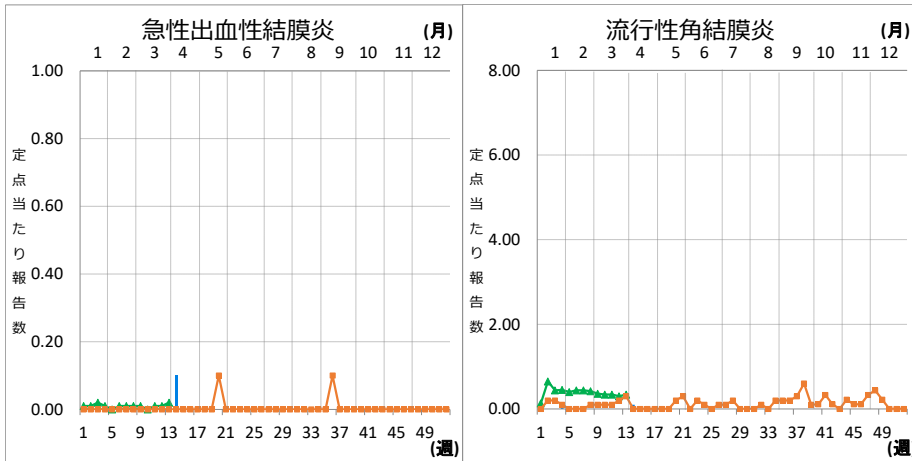
IV 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2026年第14週、ただし全国は前週）

グラフの説明  は2026年青森県、 は2025年青森県、 は2026年全国



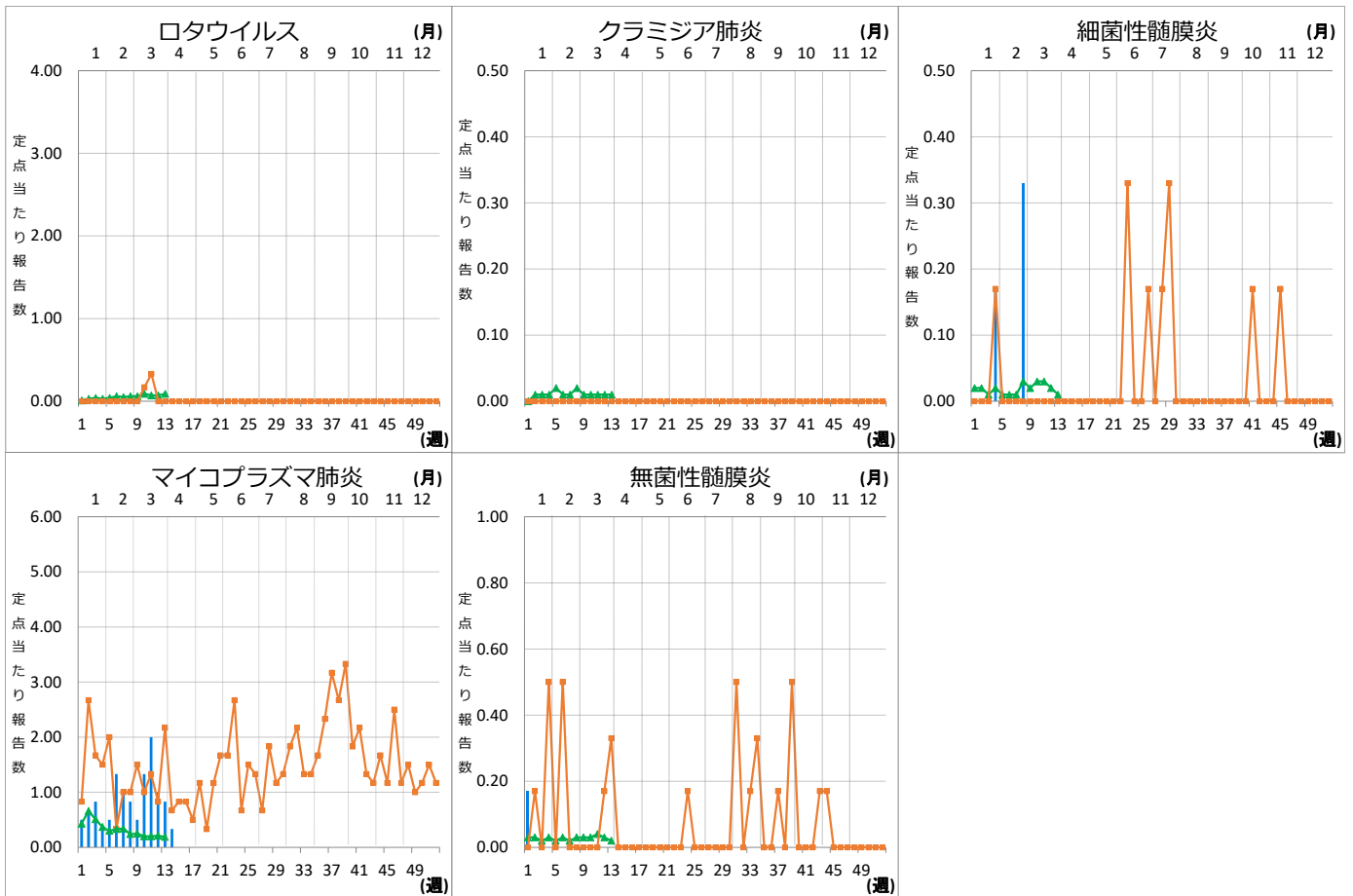
V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2026年第14週、ただし全国は前週）

グラフの説明 ← は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2026年第14週、ただし全国は前週）

グラフの説明 ← は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



Ⅶ 急性呼吸器感染症(ARI)病原体検出情報

(1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2026年第7週～14週)

急性呼吸器感染症	2026年							
	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週
提出検体数	8	7	11	5	6	10	7	10
インフルエンザウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	
インフルエンザウイルスB	4	4	7	2	1	1	3	
SARS-CoV-2	0	0	1	0	0	1	1	
RSウイルスA	0	1	2	0	2	3	0	
RSウイルスB	0	0	0	0	0	0	0	
ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	0	0	0	1	
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	1	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス3	0	0	0	0	1	0	0	
パラインフルエンザウイルス4	1	0	0	0	0	0	0	
ライノ/エンテロウイルス	2	1	0	2	3	0	0	
アデノウイルス	0	1	0	2	1	0	0	
不検出	2	1	2	1	1	6	2	
検査待ち	0	0	0	0	0	0	0	10

※第7週に提出された検体のうち、ヒトパラインフルエンザウイルス4及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第8週に提出された検体のうち、RSウイルスA及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

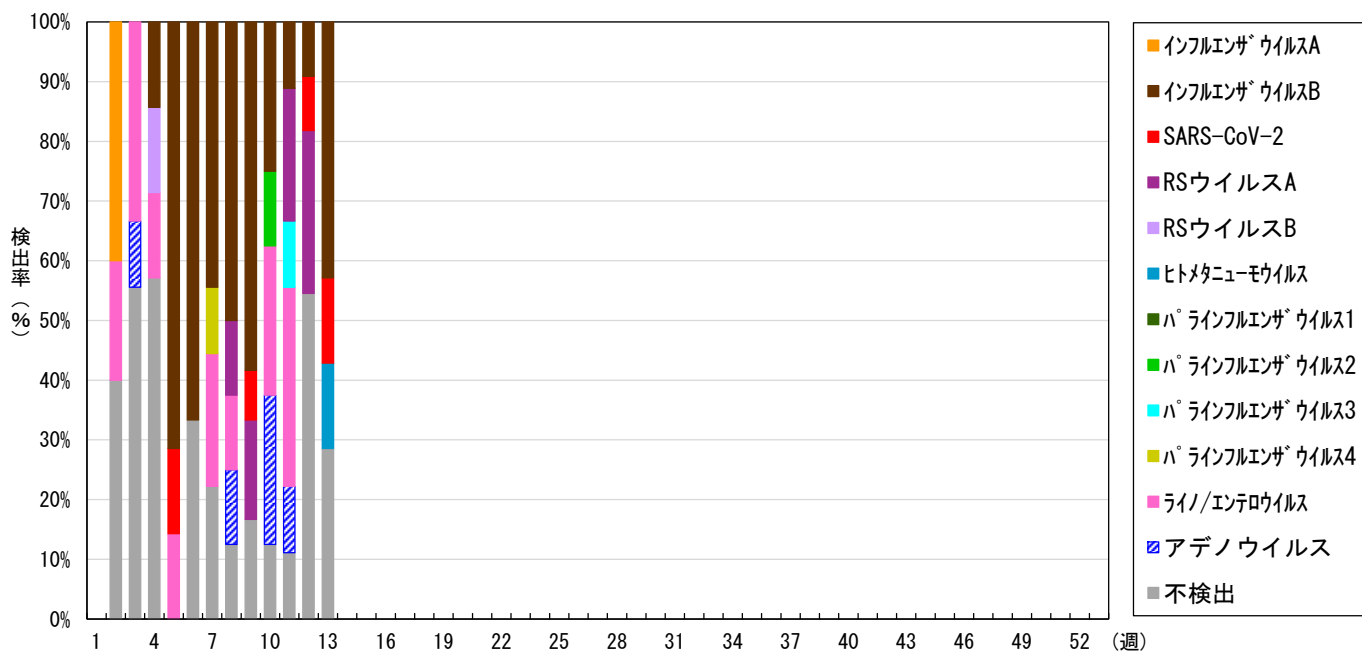
※第9週に提出された検体のうち、SARS-CoV-2及びRSウイルスAが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第10週に提出された検体のうち、ライノ/エンテロウイルス及びアデノウイルスが検出されたものが1検体、インフルエンザウイルスB、ヒトパラインフルエンザウイルス2及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第11週に提出された検体のうち、RSウイルスA、パラインフルエンザウイルス3、ライノ/エンテロウイルス及びアデノウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第12週に提出された検体のうち、SARS-CoV-2及びRSウイルスAが重複して検出されたものが1検体ありました。

(2) 検出された病原体の週別推移 (2026年第1週～13週)



Ⅷ 全数把握対象疾患発生状況（第14週）

- ・結核(二類感染症)：青森市1人 (2026年計： 18人)
- ・腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)：八戸市1人 (2026年計： 5人)
- ・侵襲性インフルエンザ菌感染症(五類感染症)：青森市1人 (2026年計： 4人)
- ・百日咳(五類感染症)：八戸市2人 (2026年計： 13人)

Ⅸ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2026年第11週～2026年第14週）

週	東青 (東津軽保健所+ 青森市保健所)	中南 (中南保健所)	三八 (三戸保健所+ 八戸市保健所)	西北 (西北保健所)	上北 (上北保健所)	下北 (下北保健所)
11	結核1人 A型肝炎1人 劇症型溶血性レンサ 球菌感染症1人			梅毒1人	腸管出血性大腸菌感 染症1人	
12	劇症型溶血性レンサ 球菌感染症1人			水痘(入院例)1人		百日咳1人
13		侵襲性インフルエン ザ菌感染症1人	結核1人 百日咳1人			
14	結核1人 侵襲性インフルエン ザ菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感 染症1人 百日咳2人			

X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2026年第1週～第13週までの累計）

分類	二類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокクス症	エムポックス	オウム病	
累積報告数	3229	24	389	6	5	160	43	3	29	1	
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	
疾病名	重症熱性血小板減少症候群	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	
累積報告数	7	34	23	6	1	8	406	2	114	48	
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	
累積報告数	237	6	115	3	39	394	212	7	128	15	
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症	
累積報告数	812	177	2549	53	16	21	2106	1	197	6	

青森県（2026年第1週～第14週までの累計）

分類	二類	三類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	A型肝炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	
累積報告数	18	5	3	1	5	1	4	5	6	2	
分類	五類										
疾病名	百日咳										
累積報告数	13										

XI 病原体検出情報

報告はありませんでした。

XII 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2026年第14週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第14週	児童・婦人関係施設等	12	上北保健所

2026年報告件数及び症者数

施設種別	月(週)	1月	2月	3月	4月				5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 (施設別)	
		1-5週	6-9週	10-13週	14週	15週	16週	17週	18週	18-22週	23-26週	27-31週	32-35週	36-39週	40-44週	45-48週		49-52週
介護・老人福祉関係施設	件数	2	2	6	0													10
	発症者数	37	44	69	0													
児童・婦人関係施設等	件数	4	0	1	1													6
	発症者数	92	0	30	12													
障がい関係施設	件数	1	0	1	0													2
	発症者数	20	0	18	0													
その他施設	件数	0	0	0	0													0
	発症者数	0	0	0	0													
計(月別)	件数	7	2	8	1													18
	発症者数	149	44	117	12													

感染症の窓

つつが虫病は、つつが虫病リケッチアを保有するツツガムシ(ダニの一種)に刺されることによって発症します。典型的な症例では、39℃以上の「高熱」を伴って発症し、皮膚には特徴的なダニの「刺し口」、その後数日で体幹部を中心に「発疹」がみられます(主要3徴候)。

東北に生息するダニは、秋に孵化しますが、その一部は越冬し、気温の上昇とともに活動を始めるため、つつが虫病は、春～初夏と秋～初冬に二峰性の患者発生のピークがみられます。本県の過去10年間における月別報告数(図)をみると、4月から増加し始め、5～6月にかけてピークを迎える傾向がありますので、これから6月までの期間は、特に注意が必要です。

ダニは、山林や河川敷などの草地などに広く分布しているため、つつが虫病が多発する時期には、山林等には極力立ち入らないことが最も有効な予防手段です。立ち入る際には、長袖、長ズボン、長靴、手袋などを着用して肌の露出を避け、また、作業後は、入浴して体に付着したダニを洗い流すとともに、着衣はすぐに洗濯するようにしましょう。

○詳しい情報はこちらをご覧ください。

👉 [つつが虫病\(国立健康危機管理研究機構 HP\)](#)

つつが虫病

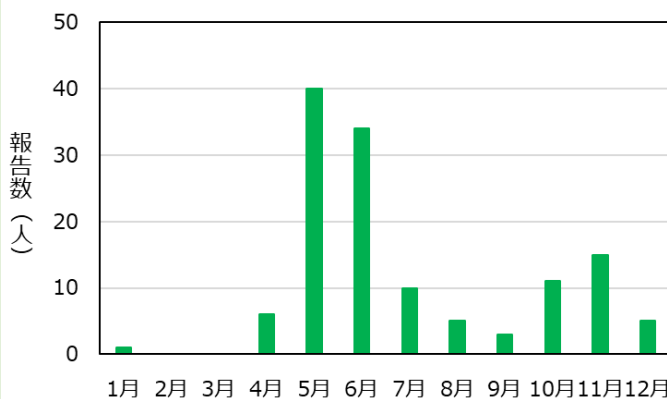


図 青森県の過去10年間(2016～2025年)におけるつつが虫月の別報告数(過去10年間の総報告数: 130件)

